

て苟も士女の口にすべからざるものを以て、如何にも清潔なるやに言ひ慣らせり。之を以て男女の所謂痴情を言ふもの、得たり實しとして、正々堂々之を言ひ、之を行はんとす。妾は。固より戀愛の二字の、如何にして譯出したるや否や知らずと雖も、今の新聞雑誌又は著書の、戀愛の二字を妄用して、青年男女墮落の資に供しつゝ、あるをみて、轉た感慨に堪へざるなり。

古より青年の弊は、男女の性慾なり。されば、この時期に於て、最も此の弊を矯めんとすべき筈なるに、却てさはせずして、或は之を煽動せんとす、豈に無責任の至ならずや。青年男女寄れば即ち之を談せんとす、之が弱點に乗せんとするは、果して誰人なるや。故に妾は、世の囂々たる女學生墮落の主なる遠因として、戀愛の二字の流行に歸し、從つて戀愛の二字を世に流行せしめたる、世の新聞雑誌の責任を質し、尙今後世の先進者の戀愛の二字を固く使用せられざらんことを、偏に希望する者なり。

## 經濟的的人生觀

佐治實然氏は先頃某處の演説に於て人生を經濟的方面から見て之を左の八種に分類して話された。

それはこうである。

第一幼年時代、やりきれない程世話を焼かせる極めて、不經濟なる生活、

第二寄生的生活、玄關番、居候、老人の類で經濟上無價値のもの、

第三屍位の生活、屍位粗餐の輩を指すので所謂貴婦人の生活や親護りの富家連のことを云ふので、經濟上は三文の價値もない、

第四自然的不具者、是は云ふ迄もなく經濟上零である、

第五不正手段によりて生活するもの、是も經濟上の價値は無論マイナスである、

第六勞働に依りて生活する者、之れ國家を組織する要素でもあり、中堅でもあると云ふ者だ、

生産上より云へば確かに優秀の位置を占有するの資格はあるが、彼等は教育とか、政治と

第七

第七 公共事業に依り私的生活を營むる者、官吏、宗  
 教家、教育家、議員等である、授爵授勳の沙  
 汰に接し、國家より有用の材なりと目せられ  
 馬車を驅つて奔走して居る人も尠くはない  
 が、其當人の心に聞きたならば、何も國家の  
 爲に働いて居るのではない。番老後安逸なる  
 餘生を送らん爲め。月俸を頂き、年末賞與金  
 を貰ひ、年金を頂戴すると云ふのを當込んで  
 居るのかも知れぬ、否斯る人は決して尠くな  
 いのである、此れ等の人は取りも直さず口の  
 爲めに働く人で、國家の爲に働く人でないと  
 云ふ事が出来る、彼の教員が第二の國民を造  
 るなどと云ふけれど、實は月俸を貰つて自分  
 の口を糊する爲めである、議員も然りて國家

第八

第八 私營の事業に依りて私的生活を爲す者、これ  
 は第六に次に經濟上有價値なものである、譬  
 へば會社銀行關係者の如きもので、無数の職  
 工に自活の資を給し、更に其附近の住者にま  
 で直間接に之を益し、會社の爲に大に働く、  
 此等の人々は誠に經濟上の優勝者、語を換へ  
 て云くは斯界の光明である、若し茲に斯の如  
 き位置にありながら、質素の生活を營みて、  
 餘力には之を社會の事業に投じ以て社會の利を  
 圖るに餘念のない程の人があつたならば、夫  
 れは經濟上の第一位に座すべき人である、  
 借我等は右の中何れに屬するであらうか頗る耳の  
 痛い否眼のいたい次第である。

